

米国 予想を上回ったが依然として低水準(09年11月CB消費者信頼感指数)

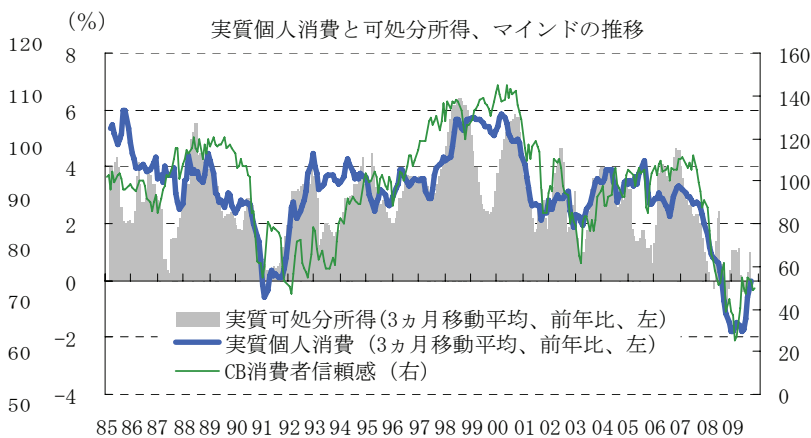
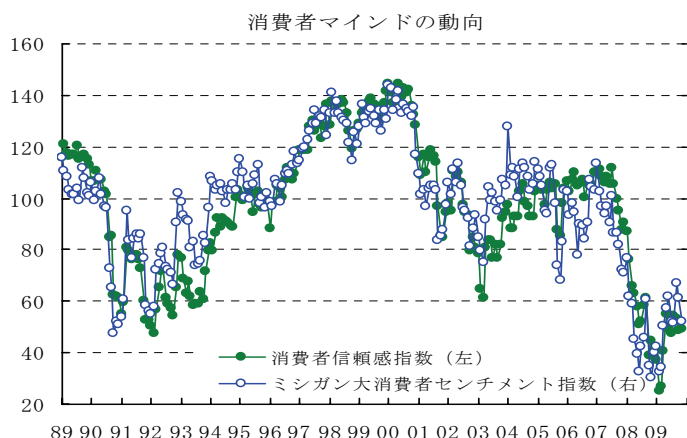
発表日:2009年11月24日(火)

～雇用判断は雇用情勢の一段の悪化を示唆～

第一生命経済研究所 経済調査部
主任エコノミスト 桂畑 誠治(かつらはた)
03-5221-5001

11月のCB消費者信頼感指数は、49.5（前月48.7）と0.8ポイント上昇し市場予想の47.3を上回った。失業率の上昇など厳しい雇用情勢を受け現状指数が過去最低水準付近に低下した一方で、先行きの景気回復期待が強まり、雇用情勢の悪化懸念が弱まったため、期待指数は上昇した。11月の消費者信頼感指数が前月から上昇したが、小幅改善にとどまったこと、依然として低い水準にとどまっていることから、11月の個人消費の緩やかな拡大を示唆している。

今後数ヶ月は、景気回復が続くが厳しい雇用情勢などを背景に、現状指数は小幅上昇にとどまろう。一方、期待指数は景気回復期待の強まりによって上昇するが、既にかなり上昇しており改善余地は限定的。このため、消費者マインドは上昇するものの、改善ペースが鈍いうえ、低い水準にとどまると予想されるため、消費の拡大ペースを抑制する要因になると見込まれる。



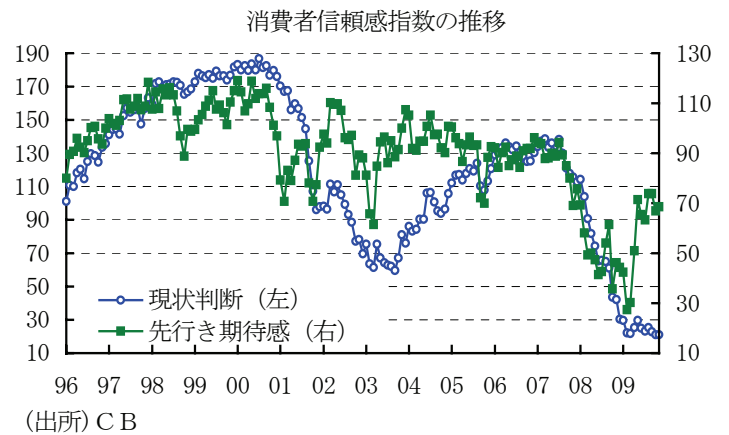
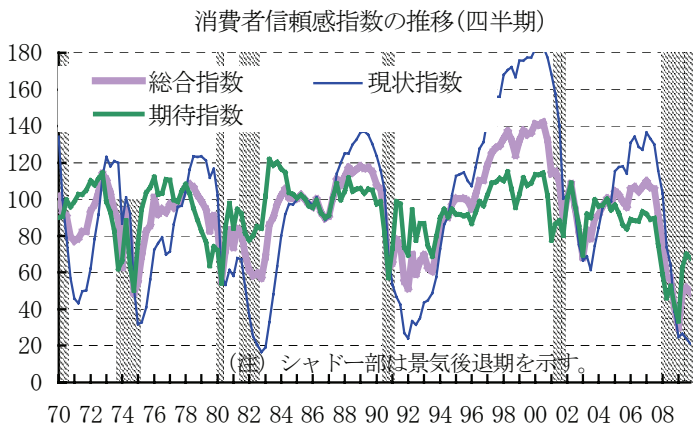
(出所) 米商務省、CB

消費者信頼感 (Consumer Confidence)

	消費者信頼感指数		雇用判断		半年後の景況感		半年以内の購入計画		ミシガン大学消費マインド		
	期待指数	現状指数	充分	困難	良くなる	悪くなる	自動車	住宅	期待	現状	
09/04	40.8	51.0	4.9	46.6	15.7	24.4	4.9	2.6	65.1	63.1	68.3
09/05	54.8	71.5	5.8	43.9	22.5	18.0	5.7	2.8	68.7	69.4	67.7
09/06	49.3	65.5	4.5	44.8	20.9	20.4	4.7	2.6	70.8	69.2	73.2
09/07	47.4	63.4	3.7	48.5	18.4	19.0	4.8	2.1	66.0	63.2	70.5
09/08	54.5	73.8	4.3	44.3	22.2	15.2	5.3	3.0	65.7	65.0	66.6
09/09	53.4	73.7	3.6	47.0	21.3	14.6	4.5	2.5	73.5	73.5	73.4
09/10	48.7	67.0	3.5	49.4	20.8	18.2	4.7	2.3	70.6	68.6	73.7
09/11	49.5	68.5	3.2	49.8	20.0	15.1	4.4	2.0	66.0	63.7	69.6

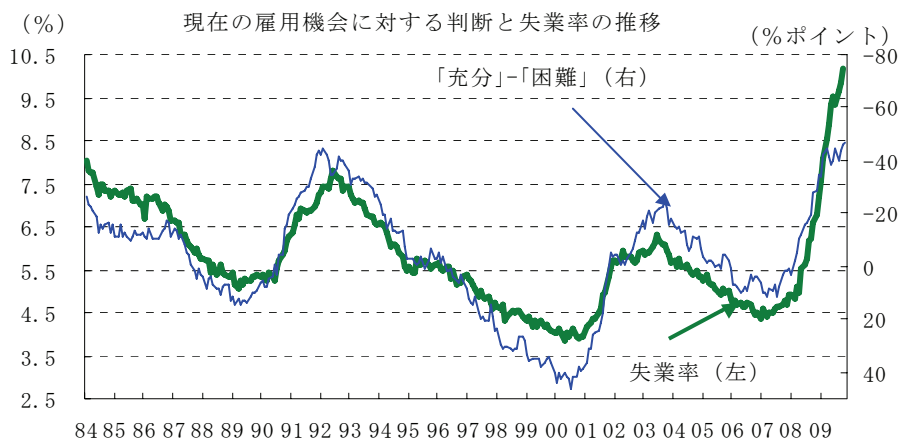
本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

内訳では、現状指数が前月比▲0.1ポイント低下したが、期待指数が同+1.5ポイント上昇した。現状指数は、11月の調査期間に公表された10月の失業率の急上昇などを背景に悪化したとみられる。一方、期待指数は、景気の先行きに対する楽観的な見方が強まり、雇用の先行きに対する悲観的な見方が弱まったため上昇した。



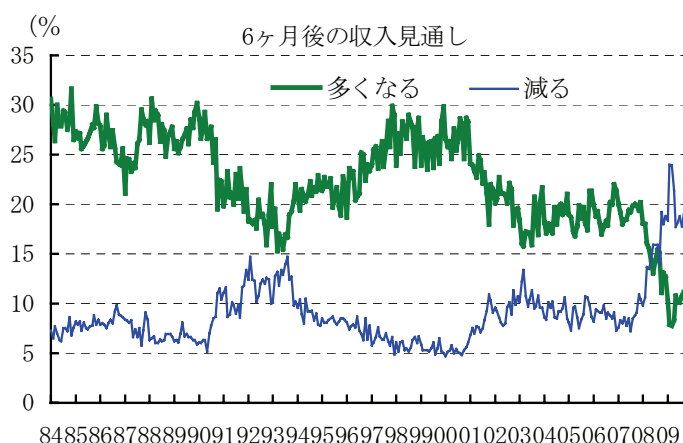
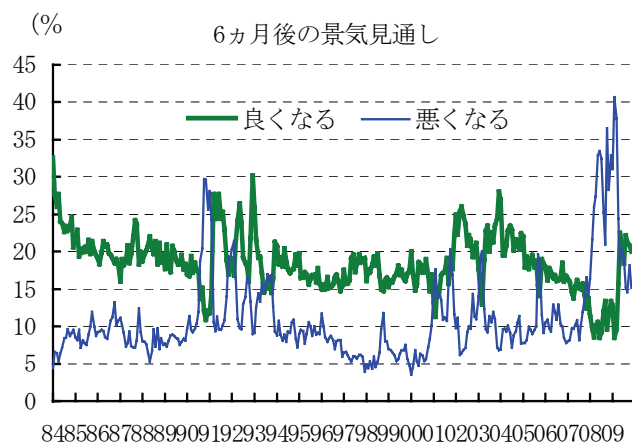
現状指数の構成項目では、「景気」がマイナス幅を縮小したものの、「雇用」は前月からマイナス幅を拡大した。詳細では、現在の景気に対する悲観的な見方が弱まったが【現在の景気に対する判断の「良い」-「悪い」が▲37.6と前月の▲38.9からマイナス幅を縮小した】、現在の雇用環境に対する悲観的な見方は強まった【現在の雇用機会に対する判断の「充分」-「困難」が▲46.6と前月の▲45.9からマイナス幅を拡大】。

現在の雇用機会に対する判断（「充分」-「困難」）は、失業率と同じ方向に動く傾向があることから、11月の失業率は10.3%への上昇が予想される。

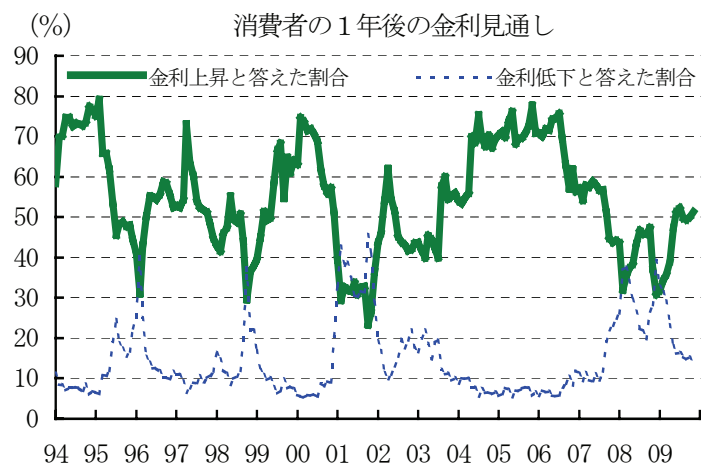
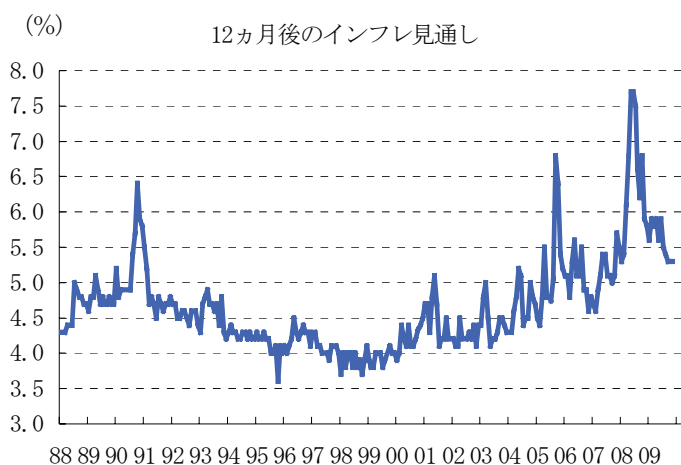


期待指数の構成項目では、「収入」のマイナス幅が拡大した一方、「景気」がプラス幅を拡大し、「雇用」がマイナス幅を縮小したため、期待指数全体も改善した。詳細をみると、先行きの収入については悲観的な見方が強まった【6ヵ月後の収入が「増加する」-「減少する」が▲9.1と前月の▲8.6からマイナス幅拡大】。一方、景気の先行きに対する楽観的な見方が強まった【6ヵ月後の景気に対する見方の「良くなる」-「悪くなる」が+4.9と前月の+2.6からプラス幅を拡大した】。加えて、雇用の先行きに対する悲観的な見方が弱まった【6ヵ月後の雇用に対する見方の「多くなる」-「少なくなる」が▲7.9と前月の▲9.3からマイナス幅を縮小した】。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



インフレに関する調査では、ガソリン価格の上昇等により11月のインフレ見通しが5.3%（前月5.3%）と高止まりを続けた。また、1年後の金利見通しでは景気の先行きに対する見方が楽観的に転じていること、金利の低下余地が小さいことなどから、金利が上昇するとの見方が強く、目先の耐久財、住宅需要を下支えする要因となろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。